

(別紙)

病院医学教育研究助成成果報告書

(1) 研究題名

栄養サポートチーム (NST) 合宿

(2) 研究組織等

研究組織の名称

栄養サポートチーム (NST)

研究責任者名 (所属)

栄養サポートチーム (NST), 臨床栄養部 足立経一

共同研究者名 (所属)

臨床栄養部: 川口美喜子, 成相由起子, 端本洋子, 角 亜沙子, 藤井 晴美, 原 明宏

地域医療連携センター: 今岡リウ子

看護部: 藤原和枝

検査部: 野津吉友, 陶山洋二, 佐藤恵美

乳腺・内分泌外科: 板倉正幸

消化器内科: 石村典久

内分泌・代謝内科: 栗岡聡一

他, 島根大学医学部附属病院 NST メンバー

(3) 研究費及び研究費の用途

研究費

150000円

研究費の用途

項目	予算額	決算額	比較増減	内 訳
会場使用料	150,000	94400		キララセンター施設使用料
消耗品		36266		模造紙・コピー用紙他文房具
合計	150,000	130666	19334	

(4) 目的及び方法、成果の内容

目 的 (800字程度)

本院栄養サポートチーム (NST) は、日本栄養療法推進協議会の NST 稼働施設認定を受けているが、その更新時には管理栄養士、薬剤師、看護師、臨床検査技師のすべての職種において、日本静脈経腸栄養学会あるいは日本病態栄養学会が認定する NST 専門士の資格認定を取得していることが条件となっている。NST 専門士の受験には、学会参加と教育セミナーの受講および教育認定施設における 80 時間以上の実習が義務づけられている。本院は NST 教育認定施設となっており、NST 活動に参加していれば受験資格が得られるが、各病棟の NST リンク看護師においては勤務形態の問題もあり、毎週行っている NST カンファレンスおよび廻診に参加できていないのが実状で、看護師が受験資格を得るのはきわめて困難な状況が存在する。

平成 19 年度の病院医学研究助成において、キララ多岐において土日を利用した NST 合宿を行ったところ、23 名の看護師をはじめとして合計 47 名の参加者があった。大学病院から適度に離れたこと、外の景色を眺めながらの研修は参加者に極めて好評であった。本合宿による実習も含めて NST 専門士受験資格を得た看護師 1 名をはじめとして、平成 19 年度には 5 名が NST 専門士の資格試験に合格した。現在、薬剤師、検査技師には複数の NST 専門士が存在するが、看護師はまだ 1 名のみである。したがって、看護師の NST 専門士を育成するために、平成 20 年度にも集中的な講義、小グループでの模擬 NST カンファレンスを行う NST 合宿を行い、NST 活動に必要な栄養療法に関する基礎知識の習得と受験資格を得るための実習時間の補助とすることを目的とした。

方 法 (800字程度)

平成 20 年 10 月 18 日 (土)、19 日 (日) を利用し、12 時間の NST 実習に相当する合宿形式の勉強会を行った。

両日の日程は下記に示した通りであるが、1 日目は主観的な栄養状態の見方、身体測定の方法、栄養剤の種類およびその投与の工夫、検査値の見方、薬剤投与時の注意点など特に栄養管理に重要と考えられる項目についての講義を中心にを行い、2 日目は症例検討を行った。

第 1 日目 10 月 18 日 (午 前)

9:00~9:30 合宿開催の挨拶、オリエンテーション 足立

- ・ 合宿の趣旨について説明
- ・ 合宿のスケジュール等に関する説明
- ・ 自己紹介

9：30～10：15 講 義
乳腺・内分泌外科：板倉先生 「輸液管理・術前術後管理について」
10：15～10：30 休 憩
10：30～11：00 講 義
臨床栄養部：川口先生 「経腸栄養剤をどのように選択するか」
11：00～11：30 講 義 腎臓内科：天野医師
11：30～12：00 講 義 歯科口腔外科：吉川歯科医師
12：00～12：45 ランチミーティング
人工呼吸器「エングストロームケアステーション」の説明
12：45～13：00 記念撮影

第1日目 10月18日(午後)

13：00～13：45 講 義 消化器内科：足立 「胃瘻をめぐる問題点とその解決法」
13：45～14：15 講 義 精神科：岡崎医師
14：15～14：45 講 義 薬剤部：西本薬剤師
14：45～15：15 講 義 リハビリテーション部：米原言語聴覚士
15：15～15：30 休 憩
15：30～16：00 講 義 検査部：野津先生 「生化学、生理機能検査から」
16：00～16：30 講義 呼吸器内科：出口医師
「呼吸器疾患における栄養療法」
16：30～17：00 症例報告 6東：陰山看護師
17：00～18：00 本日のまとめ、ヨーロッパ静脈経腸栄養学会報告 足立

18：00～21：00 夕食と懇親会(キララバーベキューハウス)

第2日目 10月19日(午前)

グループワーク

9：00～9：30 症例検討についての説明 足立
9：30～10：20 症例1検討
10：20～11：10 症例2検討
11：10～11：40 まとめと質疑応答
11：40～12：00 研修会終了書の授与式と総評 足立
12：00 解 散

都合により部分参加も許可したが、全面参加の場合には 12 時間の NST 教育施設における実習として認定し、合宿終了時に受講証を全員に配布した。

成 果 (データ等の図表を入れて 2000 字程度)

今回の NST 合宿には、医師 12 名 (研修医 3 名)、看護師 24 名、検査技師 1 名、薬剤師 1 名、栄養士 6 名、MSW1 名、リハビリテーション部 3 名の計 48 名が参加した。

合宿終了後参加者全員に講義、症例検討、開催場所、懇親会についてのアンケート調査を実施し、その評価により今回の合宿の評価とした。

評価は 1 とてもよかった、2 よかった、3 よかったが改善の余地あり、4 よくない = 役にたたなかった。の 4 段階で評価させ、感想、今後への課題について自由記載とした。

(1) 講義について



講義風景

アンケートでは、1 および 2 の“とてもよかった”、“よかった”の判定であったものが 89%であり、残りの 11%は“よかったが改善の余地あり”、と答えており、基本的な事項がよくわかってよかったとの回答が多く、おおむね好評であった。

- 今後取り上げてほしい講義の内容として
特殊な病態での栄養療法 (例えば肝障害、短腸症候群など)、糖尿病・メタボリック症候群について、症例提示を含めた NST と絡みのある内容、国内外での学会での最近の動向、今まで喋ったことのない診療科・チームによる講義、NST が病院内でうまく機能している施設の講師による講義、
- その他、
内容が多岐にわたっており、時間的な余裕の希望もみられた。

(2) グループに分けての症例検討会について



グループでの症例検討会

アンケートでは、1および2の“とてもよかった”、“よかった”の判定であったものが60%であり、残りの40%は3の“よかったが改善の余地あり”であった。

- 意見として、
症例の資料が多すぎて、時間が短く十分な討論ができなかった。病棟看護師として実際の症例検討に今後どのように関わればよいのかが不明であった。グループ内で症例の抱える潜在的な問題・今後解決しなければいけない問題を抽出していくような症例の提示が望ましい。最初のオリエンテーションをもう少しわかりやすいものにしてほしい。などの意見があり、来年度に向けて、提示症例の作成については課題が残った。

(3) 開催場所について



集合写真

アンケートでは、1および2の“とてもよかった”、“よかった”の判定であった

ものが 64%であり、36%は 3 の “ よかったが改善の余地あり ” であり、開催場所については概ね好評であったが、開催場所を大学構内で行う方がもっと多くの参加者が得られやすいのではないかとの意見もあった。

以上、今回の NST 合宿は参加者に概ね好評であったが、栄養療法に関する知識レベルには参加者間で大きな違いがあるため、すべての人が満足する合宿を行うのは困難であった。また、症例検討では実際の NST 活動に近い形で、基本的な事項をしっかりと行えるような症例の作成が必要であった。

最後になるが、平成 20 年度には NST 専門士試験を看護師 2 名、検査技師 1 名が受験し、検査技師 1 名が合格した。NST 専門士試験は栄養療法に関する種々の専門知識を要求されており、本合宿のみでは十分な知識を得ることはできないが、合宿を行うことで参加者全体の一体感、栄養療法に関するモチベーションは明らかに向上しており、今後も継続して行うことが必要と考える。